



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

平田ロータリークラブ 週報 ~ No. 1840 (平成 24 年 4 月 26 日)



2011-2012 年度

国際ロータリー会長 / カルヤン・バネルジー
2690地区ガバナー / 伊藤 文利

会長 / 飯塚 詔夫 副会長 / 黒田 昌弘
幹事 / 堀江 卓男 会計 / 横野 良文

■平田ロータリークラブ 事務局

〒691-0001 島根県出雲市平田町 2280-1 平田商工会議所 2F
TEL: 0853-63-3232 / FAX: 63-5365 / IP: 050-5204-5816
URL: <http://hirata-rotary.jp/> Mail: office@hirata-rotary.jp

9:00 ~ 17:00 (土・日曜・祝祭日 休局)

■例会プログラム■

例会日	卓話者	演題
4月26日	元開星高校野球部監督 野々村 直通 様	私の教育論
5月10日	モンゴル国 ハンザン大学 日本語科 エンバヤル先生	「ニッポンとニホンゴ」
5月17日	18:30 ~ ホテルほり江	夜間例会

■出席報告■

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前回補正出席率
36	33	3(2)	97.06%	94.12 %

■欠席者■

園山(山根 / 牧野)

■来訪者■

なし

■メークアップ■

4/23 大島卓・内田・河原(出雲中央)

■次回例会受付当番■

(5月17日) 横野良文 / 牧野昭雄 / 持田稔樹

(5月24日) 原 泰久 / 小村益造 / 大島 治

■近隣クラブ例会情報 (メークアップを考えましょう) ■

(出雲) (松江) 赤文字 例会変更

月	出雲中央	松江南
火	出雲	松江しんじ湖
水	大社 5/2(休) 5/9	松江
木		松江東 4/26 6/21 6/28(休)
金	出雲南	

■会長挨拶■

ただ今石原恵行会員の冥福を祈って黙祷を行ないましたが、石原さんは2001年7月~2002年6月まで第18代 会長を務められ、平田RCに大変ご貢献なさいました。あらためて哀悼の意を表します。

さて、今日は野々村先生をお迎えしての例会ですが、先生は甲子園の抽選会、又4月23日の母校大東高校での講演会等、和服姿の写真を良くおみかけ致します。

今日は和服の歴史をお話してみたいと思います。

日本人の一番古い着物は弥生時代で、男は衣の様なものをまとい、女は貫頭衣を着ていました。7世紀に入ると中国の文化が入ってきて、いわゆる聖徳太子が着ている様な形になった様です。

平安朝に入ると有名な十二単です。

中世に入ると今までの上着であったものを取って、肌着であった小袖が上着になりました。この小袖は丈が短く膝までだったので、丈長小袖といって丈を伸ばしたものに变形しました。これが現代の和服の原型です。

和服は着付けをする時に、その人のプローションに合わせて着るものです。洋服と違って着物は直線裁断ですのでプローションに合ったキチツとしたものが作れません。フワッと どこか無駄な所をうまく粋に着こなすのが着物の魅力です。

■幹事報告■

1. 休 会

- 出雲RC 5/1(火) 定款第6条により
ビジター受付 なし

2. 笠岡RC 創立25周年記念誌をいただきました。

3. 地区大会記念誌の配布

■スマイル■

大島治 (野々村様ようこそいらっしゃいました。本日のスピーチよろしくお願致します。)

遠藤 (本日のスピーカーに野々村先生をお迎えして!!)

飯塚大 (野々村先生をお迎えして)

園 (野々村様ようこそ... ありがとう...)

失礼ながら本日は諸要あり、早退させていただきます。)

内田 (野々村先生本日はありがとうございました。)

■スピーチ・例会行事■

演題「私の教育論」

元開星高校野球部監督 野々村 直通 様

“あの”出来事にて一躍話題になった方をお招きしてのスピーチでした。

会員の皆さまも心のどこかで聞いてみたいと思っていらっ

しゃったのでしょう、出席率は非常に高く野々村先生の注目ぶりも数字となって表れたようです。

写真を見ていただいてもおわりの通り、和服姿で来られ、話される前からその風格というか、野々村流なるこだわりのようなものを感じずにはいられない雰囲気が漂っていました。

さて講演ですが、まずはマスコミに取り上げられたことに関しての話をいただきました。開星高校がH22 春の選抜のときに、21世紀杯の向陽高校(和歌山)に惜しくも敗れました。その時の監督としてのコメント「...末代までの恥」を発端とするものであり、さらにはその服装にまで飛び火してしまったことなど、スポーツ新聞(マスコミ)というものは商売のために面白おかしく見出しをつけたりするもの。あれだけ叩かれたが今度はネタのためにいろいろと話題にもらったことなど、さらには体罰の話になり、学生たちの指導においての先生のイメージや子供たちとの間に叱られてもそれを愛として受け止められる土壌が培われているのかどうか、逆に「叱られる先生」のイメージが叱られない学生はダメな学生ではなどという変なとらえられ方にまで発展したことなどお話しいただいた。さらには教育の話となり「教育とは先生が主役」であり、子供は制限があっていいのではなどと今の教育現場のあり方を鋭く指摘されていました。最後に野々村先生のこれからの使命として教育の在り方に関して少しでも自分の体験が役に立てばと講演などを行っていきたいとお話されていました。そしてもう一つ、「やくざ監督と呼ばれて」という本を出版されました。その本を買って下さいというお願いとともに、「売って」くださいと切にお願いされました。

